

令和2年度 第2回長野市観光振興審議会 会議録

日 時 令和3年3月26日(金) 午後3時から午後4時20分まで

場 所 長野市役所会議室203(第二庁舎10階)

出席者 委員(14人中11人出席)

事務局8人

特定非営利活動法人SCOP2人(次期観光振興計画骨子策定業務受託者)

1 議事(議長:笠原会長)

(1) 次期観光振興計画骨子(案)について

資料1-1 次期観光振興計画 骨子(案)~計画の基本的な考え方~

資料1-2 基礎調査・Web調査・対面調査の概要(速報値)

2 質疑応答、意見など

委 員:全体のフレーズや骨子には異論はない。

しかし、これまでの目標の指数である宿泊者数は目標値を達成しているが、経済波及額は目標値を達成されていないことがある。

そういった目標値の検証方法等の記載がほとんどないのが非常に気になる。

また、あらゆる価値観が観光にも入っていく中で、足元をしっかりと見据え、これまでKPIの目標値が、なぜ達成されなかった原因が記載されていないという感想を持った。

目的の中の「関係人口を増加させる」という項目について、それだけではなく、移住・定住人口の増加により社会基盤を強化するという表現まで踏み込んでよいのではないかと考える。

事務局:関係人口の増加については、ひいては移住・定住に繋がるものであると考えており、いただいた意見も参考にしたい。

経済波及額が目標値を達成されなかった理由としては、宿泊者の単価が下がった等の理由が考えられる。

今後は、質を上げ、高付加価値化することにより、単価を上げていく必要があると考えている。

委 員:次期計画を具体化していく中で、これまでの反省を生かし、お金を落とし仕掛けづくりをどうしていくか、しっかりと考えていって欲しい。

委員：外国人の中でも、比較的財布の紐が緩いと言われているアジア圏の観光客が本市を訪れてくる仕掛けを構築していく必要があるのではないかと考える。

委員：観光地の魅力を高める、グレードアップを図るということは非常に大切である。
シンガポール政府は、コロナ後の誘客のために「オンライン旅行」を国内外に発信している。
外国人に向けて、本市の魅力をマスコミなど使い積極的に発信していく必要があると考える。

事務局：全国的にも多くの自治体でオンラインツアーを実施している。
本市においても、来年度コンベンションビューローで予算化して実施する予定である。
他の自治体でも実施しているため、本市では例えば、名物のガイドや女将さんに登場していただいて、人と繋がりが持てるものを構築していければよいと考えている。

委員：各地の云われなども積極的にPRしていくようにした方がよいと考える。

委員：長野市のみならず、北信地域にも目を向けて他の自治体ともタイアップして進めていければよい。

事務局：周遊については、ながの観光コンベンションビューロー、善光寺、戸隠観光協会、戸隠神社などと連携して、戸隠の式年大祭期間中に特別に御朱印と御朱印帳を作成した。戸隠神社、善光寺、松代を巡っていただけるような仕組みを検討している。
また、JR、アルピコなどと連携して、スマホで決済できるMaaSの仕組みを検討している。
今後そういった中で、更に周遊させる仕組みを検討していきたい。

委員：松代については、童謡に関する偉人が多く輩出されているので、松代の施設などで音楽を流すなどの方策も検討した方がよいのではないかと考える。

委員：中山間地域では人口減少が激しいが、豊かな自然環境に惹かれて来訪して下さる方はいるので、関係人口を増加させるということは、大変重要なことであると考えている。
本市は善光寺、戸隠、松代が中心であることは間違いないが、そんな中でも地域の小さな取組は発信していきたい。
観光事業者としても、これから5年後の観光のあり様は、どのような状況であるのか想像しにくい状況ではあるが、訪ねて来てくれる人を大切にしなければいけない

と感じている。

個人消費者としては、県民割を活用して白馬や仕事があるときには長野市内で宿泊何回かした。

委員：アフターコロナへの期待が多く含まれた内容であると感じた。

アクションプランを実践するのは「人」であり、若い人たちに期待している。

地域の観光協会でも、多くの若い人がいるが、その人たちが成長できるように、近隣の地域の方々との勉強会や交流会、講演会があればよいと考えている。

そういった内容が今後の計画の中に入ってくればよい。

委員：地区内のイベントが一昨年の台風、昨年からのコロナによりほとんど中止になってしまった。

地区内でも分科会を設けて、宿泊事業者などが、地区を盛り上げて、宿泊を多くし、お金を落としてもらうにはどうすればよいか考えている。

また、お土産についてもいろいろな事業者で検討していきたい。

委員：資料の中に「観光振興政策の大きな方向転換を行う地域が出てきています」とあるが、具体的に大きな方向転換をした地域があるのか？

また、ワーケーションという言葉をよく聞くが、この中にはその記載がないが、それについてはどのように考えているのか？

事務局：これまでの「マストツーリズム」から転換を図っているところでは、京都や高山市などがそうであるが、世界的にはバルセロナなどが挙げられる。

これまでの「誰でも、いつでも、たくさん来ていいです」という考え方とは異なり、「観光公害」を防ぐために一定の制限をして、観光客の来訪の平準化を図るよう、ある時期、時間帯は自動車の乗り入れを禁止するなどの方策をとっている地域がある。

委員：目に見えて分かってきていることであるが、団体のお客様は減少している。比較的、団体のお客様はマナーが悪く、困るようなことがあったが、個人のお客様は比較的良かった。今後、個人のお客様が増えればマナーについても改善され、そういった意味ではSDGsの観点にも沿っている。

そのような中において市として何ができるのかを検討し、その施策がKPIにどのように返ってくるのかを検証することは、やらなければいけないことである。

3 その他

長野市文化財保存活用地域計画の作成について … 教育委員会文化財課説明